

群馬県山岳連盟

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
群馬県庁観光物産課内
TEL 027-223-1111 内線3151

編集発行人

群馬岳連編集部 羽野順一

印刷所 朝日印刷工業(株)

山岳ぐんま

第三十九回全日本登山体育大会を終えて

事務局長 女屋 等 志

第三十九回全日本登山体育大会

は、数多くのアルピニストを育てた谷川岳を舞台に、全国から四四一名の参加をいただき、日本山岳協会役員十名、群馬岳連役員一二名の総勢五八三名が集い、九月十五日から十七日までの三日間にわたって開催されました。

開会式の九月十五日は、シドニーオリンピック開会式と同じ日でしたが、残念なことに登山行動日の十六日は、台風十四号が沖縄付近に、十七号が小笠原付近に発生し、この影響により悪天候となり、計画どおりの行動ができませんでした。したが、大きなトラブルも無く、成功裡に終了することができたことは、利根郡水上町を始め、関係各位のご尽力の賜物と心より感謝

申し上げます。

さて、開催が決定されてから一年半の準備期間がありました。群馬岳連内に全日本登山体育大会のムードを起こすには、まずは大会のテーマが決まらないとかなかなか盛り上がりがないことから始めました。大会のテーマは、高体連登山部生徒を含む岳連会員から募集し、応募数四五点の中から群馬高体連登山部委員長の小林達也さんの「魔の山なんて誰が言う味わい深し谷川岳」が最優秀賞として採用されました。

次に運営組織の編成ですが、加盟団体から役員の推薦をいただきましたが、予定する人数が集まらないため、再度加盟団体へ依頼し、ようやく一四三名を確保しま

した。組織の業務内容は山田昇記念杯登山競争大会の経験と先催県を参考にし、中枢となるのは登山部・輸送宿泊部であり、この部長と総務を担当する事務局長を決め、全日登山体育大会の事務所には、岳連参与の石井謙一郎さんのご厚意により、氏が経営する「山とスキーの店石井楼蘭」に構え、本年に入ってから本格的に準備に取りかかりました。

群馬大会の大きな特徴は、谷川岳の本格的な登攀コース五コースを組み入れたことで、これを担当するコースリーダー・サブリーダーは、数多くの登攀歴を持つ、若い会員を選考しました。医療救護部には、群馬大学医学部の齋藤繁ドクターに全面的にご指導をいただき、本番には悪天候にもめげず、肩ノ小屋に医師・看護婦を配置していただき、ことあればと即応の態勢をしていたいただきました。会場が谷川連峰というところで、ガイドブックは豊富にあります、

全国から訪れる参加者の事前研究を考慮し、登山コース及び登攀コースもできるだけ詳細に調査して盛り込んだつもりでしたが、その分時間を費やし、全国発送が六月になってしまい、ご迷惑をおかけしましたが、開会式で大会委員長の内藤順造氏から「事前に学習できる十分な資料」とのお言葉をいただき、苦勞が実ったと安堵しております。

七月に入ると、全国から参加申込書がポツポツと届き始めましたが、下旬に大会事務局長が一身上の都合から業務を去り、岳連の日常事務や十月一日の山田杯の準備でも、事務局は結構な業務を抱えている中で、「いままら事務局長を探しても時間を費やすだけ」と理事長に言われ、とうとう両方の事務局を引き受けなければならぬ羽目になり、これから連日連夜遅くまでの準備が始まり、大会まであと十五日を残す段階では、それぞれの準備がどうなっているの



挨拶 坂口三郎 日本山岳協会会長



挨拶 星野 光 群馬岳連会長



聖杖入場 田中成幸 群馬岳連副会長



宣誓 名塚秀二、吉田文江 参加者代表

か、業務で何が遅れているのかを、そして今何をすべきかを考える、と、いてもたってもいられず、一部の役員の方には夜中に電話やファクスとご迷惑をおかけしたことを、大変恐縮しております。また、水上町役場の中島秀明さんには、役場内は勿論のこと、観光協会、宿舍等地元の調整、最後には懇親会の設営までご尽力をいただくことになり、氏の積極的な活動が大会成功の原動力の一つと思っております。

先催県の大会プログラムに参加者名簿が掲載されていません。普通の大会では掲載されているのですが、これは体験してみても、掲載されていない理由がよくわかりました。それは参加者に日々変更があることです。事務局は常に参加者を掌握し、輸送宿泊部と連携して宿舎に変更をお願いする訳ですが、毎日届く変更の連絡にはまいました。プログラムに参加者名簿を掲載するのは無理だということがよくわかりました。参加者名簿と役員名簿は別冊として、最終版は九月十日に印刷しましたが、その後の変更もありました。

二日目の登山行動日は、あいにくの悪天候のため途中で中断したコースが多く出て、本部はあわただしく通信部に入る無線に耳を傾けていました。折角この日のために長い時間準備してきましたが、

悪天候にはお手上げでした。予定どおり実施された縦走コースは、平標山、吾妻耶山の二コースと、登攀コースのマチガ沢本谷です。マチガ沢本谷コースは、時間が遅延となりましたが、全員無事に下山できたことは、コースを担当した役員の行動と経験の賜物と思います。支援に回った役員もまた、手際良い対応を行い、群馬岳連のチームワークを全国にアピールしたものだと思います。

全日登山体育大会の精算も最終段階に入り、心配していた運営資金も赤字決算は免れそうです。

最後になりましたが、参加者の皆さん、全国の岳連関係者の皆さん、岳連役員の皆さん、水上町関係者の皆さん、ご協力ありがとうございました。



講評 内藤順造大会委員長



聖杖引継 桑野 忠滋賀岳連会長

富山国体報告

国体委員長 角 田 二三男

図られた。お二人に深く感謝致します。

七月の関東ブロック大会（山梨県）において、成年女子は一位で本国体出場権を獲得したが、少年男子は七位、女子は四位と残念ながら実力を発揮できなかった。この結果、成年女子とストリート出場の成年男子の出場が決まった。さらに成年女子チームは県体協から強化指定を受け、引き続き支援スタッフとして中原氏にお願いすることができた。

昨年は九月には盛大な壮行会が開催され、多くの皆様に物心両面にわたる激励をいただいたが、今年後は後で慰労していただくこととしてトレーニング・現地合宿などに励んだ。

十月の山田杯では、鍋木は今年も大幅に大会記録を更新して連続優勝するなど、順調に仕上がっていった。

◆大会日程◆

十月十四日(土) 開始式

十五日(日)～十七日(火) 競技

十八日(水) 表彰式

成績および選手団は次の通り。

◆成年男子◆

総合第10位

縦 走 第1位（入賞）

踏 査 第3位（入賞）

クライミング 第45位

監督 赤松 久宇（太田山岳会）
選手 鍋木 毅（群馬県庁）
桜井 正宏（月夜野役場）
林 幸男（自営業）

◆成年女子◆

総合第7位（入賞、10点）

縦 走 第8位（入賞）

踏 査 第11位（入賞）

クライミング 第2位（入賞）

監督 山田 豊（沼田山岳会）

選手 法領田 恵（前橋山岳会）

女屋寿美子（前橋山岳会）

加藤 揚子（沼田山岳会）

◆男女総合（天皇杯）◆

第14位（得点10点）

◆女子総合（皇后杯）◆

第11位（得点10点）

成年男子は昨年度縦走個人二位の鍋木を中心に新しく桜

井・林の両選手を加え、

強化を図った。縦走は当

初から強力であったが、

踏査においても十分に手

応えを感じられるところ

まで行き、クライミング

だけが課題として残った。

成年女子は昨年入賞

メンバーがそのまま残り、

今年は上位入賞を狙って

いたが、七位に止まり、

踏査が悔やまれる結果と

なった。

少年は男女とも関東ブ

ロックの壁を破ることが

できなかった。他県の走

力が格段とアップされたことと踏査の失敗が大きな原因である。特に男子では昨年の入賞メンバーが三人とも抜けた穴は余りにも大きかった。女子は昨年のメンバーが二人残ったが、上記のような結果となってしまった。

来年の関東ブロック大会は群馬が開催県となり、榛名町で実施される。地元であることの他に少年の踏査競技が最後の年となる。何としても成年男女・少年男女全てが本国体に出場できるよう頑張りたい。皆様のご支援をお願い致します。

選手・監督・強化関係者の皆さん、お疲れ様でした。と同時に本当に有り難うございました。



2000年とやま国体

◎事業部報告◎
岳連力レンダーの刊行について

事業部長 長谷川 勇

新年度より急遽事業部長を引き継ぎ、心の準備のないまま、十二年間続けて来た事業であります力レンダーの製作に入りました。

部長交替とこれまでの印刷会社の廃業等で、ゼロからのスタートといった感じの中、八木原理事長の協力で製作会社を探し、製作交渉・デザイン・費用等具体的な打合せに入りました。

作品につきましては、これまで同様岳連会員の応募協力をいただき、また、選考につきましては、岳連理事であり長く上毛写真連盟審査委員をつとめられました池沢常平氏に一任し、デザインも一新し、予定通り九月に出来上がりしました。

今回はこれまで以上の二四〇〇部を作り、九月に本県で開催されました全日本登山体育大会に参加の岳人への記念品として利用していただき、群馬の山を全国にアピールすることが出来たのではないかと思います。

今回の製作分も各会のご理解ご協力のもと、ほぼ完売する事が出来ました。会計・残務整理を済まし次回の準備を考えながら、カレンダーのみに限らず、事業部としての充実した方向にもつていきたいと思っています。



前橋山岳会

ブロード・ピーク登山隊

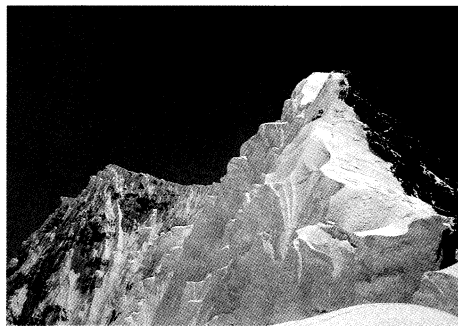
2000

隊長 名塚 季 二

二十年ぶりの前橋山岳会でのヒマラヤ遠征。スワルガロヒニ（六二五二m）は、私達の力不足もあり、最高到達点五四〇〇mでの敗退であった。

その後、何度かヒマラヤへ行こうと話が出たが、それぞれ会員の職場の都合や家庭の事情等で、計画を立ち上げる事なく時間が過ぎてしまった。

しかし、前橋山岳会でもう一度という思いが強く、私は岳連隊のヒマラヤ遠征に六回参加し、久保田昌幸は、九九年秋に岳連隊のシヤパンマに参加し、七四〇〇mまでしか到達出来なかったが、自信を深めたようで、松田達彦は海



コルから 右前衛峰、左本峰

外登山の経験は全くないが、国内で行なってきた数多くの山行を生かして、有酸素であれば頂上に立てるといふそれぞれの気持ちが一つになって、ブロード・ピーク遠征がスタートした。

六月十二日、日本出発。K2南々東リブ、東壁隊の寺沢・飛田・山野井夫妻と一緒に、経費節約のため、スカルドへのトラック、バスと一緒にした。イスラマバードでは酷暑の中、三日で再梱包を終え、二日間バスに揺られスカルドに到着。

六月十九日にスカルドを出発。二十六日にBC（四九〇〇m）を建設。私達がBCに入った時、すでに五隊が登山活動を行っており、労山隊はブロードの後K2も登る計画で入っていた。すでにC4までルートは伸びて、アタック体制に入っていた。

二十九日より登山活動を開始。初日から天候が不安定で、午後には雲まじりの雨となった。六月中旬頃までは天候は安定していたとの事。

BC→C1往復に松田が九時間もかかってしまい、順応がうまく

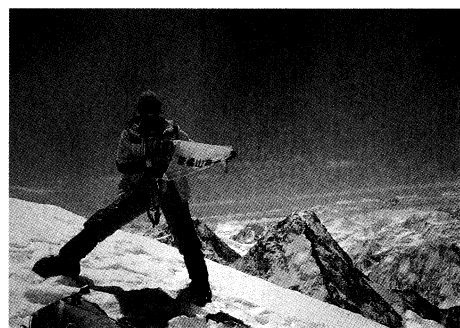
行っていないようである。

出発前、海登研でミヤマの宮崎さんが、松田は、BCまでのキラパンは、二人と一緒に行動していると高度順応が出来ないから、松田用にコックとキッチンボーイを雇い、日数を掛けてBCに入るようにしたら、というアドバイスを貰ったが、いかんせん資金面でどうも行かず、又、キラパン中は二人と一緒に歩かず、ゆつくり後から来て下さいと言ったが、本人

は氷河の中で迷子になってしまふのが恐いようで、結局BCまで私達と離れず、同じ時間で各々の宿泊地に到着していた。そのせいか、初期高度順応が出来ておらず、七月三日のC2への順応はC2に到達できず、一度パイユまで降りてもらった。

久保田は、各キャンプに辿り着くが、初高度での宿泊翌日はパルスメーター数値が低く、C2・C3共に翌日BCまで降りている。これは時間をかけるしかなく、アタックは有酸素で行う事にした。二十四日、一回目のアタック。朝から天候が悪く、早々にC4に引き返した。

二十五日は労山隊の三名と一緒に出たが、昨日同様天候が悪く、ラッセルがきつい。十二時頃コルに出て先を急ぐがスピードは上がらず、途中、久保田の酸素が終わってしまった。それでも頂上はも



ブロード・ピーク頂上、後ろはガッシャーブルム山群

う少しと思い登高を続けたが、前衛峰の直下で十六時となり、これ以上続けては危険と考えC4へ戻る事にした。労山隊の二人はピークの用意が有ることと登高を続け、残った一人と下降を開始した。

幾分、久保田が遅れた。各ピンで待ちながら様子を見ていると、二・三步下つては休む繰り返しで、遅々として進まない。すでに高山病に掛かっていた。

一緒に登ったハイポーターは先に降りてしまい、久保田には自力で降りてもらうしかなく、時には甘い言葉をかけ、時には大きな声を出しながら下降を続けた。コルまで来ると意識がはっきりしてきたが、休み休みの下降である。本人は酩酊状態の時、八ヶ岳・穂高に居る錯覚を起こしていたようである。二十時半、C4へ帰幕。翌日BCへ下山。

酸素残量がわかっていただけから、もっと早く、酸素が残っているうちに頂上をあきらめ、下山させるべきであった。

松田は十四日にパイユから戻ってきた。各キャンプ間へのスピードは遅いが、確実に高度を稼いでいる。二十三日にはC3に到達した。

二十七日、BCよりC2への移動中、C1付近で左太ももに落石を受け、七cm程の裂傷で、一緒に行動していたハイポーターと共にBCに下降してもらった。

今回、ドクターは居なかったが、幸いにもハンガリー隊のドクターが面倒を見てくれた。

私とハイポーターは一度C2へ降り、二十八日に再度C4に入った。天候は二十六日より晴天が続く。二十九日、三度目のアタック。雪はよく締まり、前回のアタックが嘘のようである。二十五日に八〇〇〇m近くまで行っていた事もあってか、高度にも悩まされず、コル七時三十九分、前衛峰九時三十八分、頂上十時三十五分。無風快晴。

出発間際で、隊員の参加・不参加と事務手続きで振り回され、登頂者一名であったが、参加した松田・久保田が又ヒマラヤへ行つてみたいと考えてもらえれば大成功である。

キリマンジャロ遠征
群馬高体連登山部創立五〇周年記念
海外登山報告

群馬高体登山専門部委員長 小林 達也

群馬県高体連登山専門部は、昭和二十四年、初代委員長の川浦三四郎のもと、加盟校七校で創立され、以来、今日に至るまで、組織の確立と活動の活性化と安全登山の確立とを目指して五十年の年月を刻んで来た。

本来ならば、その節目である昨年度、記念の事業を執り行うはずだったが、第四十三回関東高等学校登山大会の開催県であったため、諸事業を今年度に繰り延べ、今夏、その一つとしてキリマンジャロ遠征を行った。

今回の遠征は、平成九年の遠征から間もないこともあり、二十日間程度の日程であるならばより多くの顧問の参加が望めるであろうということ、また、これまで足を踏み入れたことのない山域でと考えた末、サファリという若干のおまけも付くキリマンジャロとなったという経緯である。

以下、情報提供も兼ねてキリマンジャロ遠征の概略を報告したい。

◆隊の名称 群馬県高校教職員キリマンジャロ登山隊（GTKE2000）

◆登山対象 キリマンジャロ山（五、八九五m）マチャメルート、山頂へムエカルート

◆遠征期間 平成十二年七月二十日～八月六日（サファリ含む）

◆隊編成

隊長 角田二三男（伊女）

副隊長 小林 達也（利根実）

総務 對比地 昇（太西女）

会計 大澤 清（前橋工）

会 計 原 成美（藤岡女）

輸 送 柿沼 稔（高崎女）

輸 送 日向野克己（顧問OB）

登 坂 登坂 巖（顧問OB）

中 澤 中澤 中（館林女）

大 野 大野 真也（大泉）

梅 澤 梅澤 正紘（伊商）

相 原 相原 隆男（太田東）

食 料 蘭田 武明（新田暁）

澤 田 澤田 政男（藤岡高）

新 井 新井 伸栄（前橋東）

小 林 小林 元雄（顧問OB）

医 療 鈴木 和博（顧問OB）

横 山 横山 寿雄（高崎工）

記 録 岡 重雄（顧問OB）

宮 崎 捷二（桐生高）

◆日 程

7/20 成田（A）～ムンバイ

21 ムンバイ（A）～ナイロビ

22 ナイロビ～アンボセリNP

23 アンボセリNP～アリユーシャ

24 アリユーシャ～モシ（休養）

25 モシ～マチャメル（二九八〇m）

26 マチャメル～シラC（三八〇〇m）

27 シラ～フィッシュヤーズC～シラ

28 シラ～アローグレイシャC（四八〇〇m）

29 アローグレイシャ～ウフルピーク～ミレニアムC（三八〇〇m）

30 ミレニアム～アリユーシャ

31 アリユーシャ～タランギーレNP～カラトゥC

8/1 カラトゥC～ゴロンゴロNP～シンバC

2 シンバ～アリユーシャ

3 アリユーシャ～ナイロビ

4 ナイロビ（A）～ムンバイ

5 ムンバイ（A）～成田

6 成田

◎ベテラン揃いの隊員

新進気鋭の若手顧問が多数参加と期待されたが、登山隊の陣容がはつきりしてみれば、過去に遠征

経験を持つ超ベテランばかり、しかも過去四回の遠征隊の各隊長三人が顔を揃えるという、まさに中高年登山隊となっていた。しかし、中堅とも言える三十歳から四十五歳までの顧問の参加も多く、次回遠征隊の中核となる事が期待される。

平成十一年夏に準備会、

今年五月に登山隊を結成、

果たして出発に間に合うの

だろうかと危惧される面も

あったが、ベテラン揃いの

威力は絶大で、過去の経験

が遺憾なく発揮された。その反面、

思い出話に花が咲き、肝心の話が

後回しになることも度々だった。

また、黄熱病やA型肝炎、破傷風、

狂犬病といった予防接種の情報交

換の場になってしまったり、マラ

リア対策談義となったりと、とか

く医療関係へと話題が逸れていつ

たのは致し方ないところだろう。

◎登山の概要

隊員一名につきポーター二名を雇わなければならないことから、ポーター四十名、それにチーフガイド一名、アシスタントガイド兼コック三名、総勢六十四人の隊編成となった。マチャメル村は水や緑が豊富で、バナナやコーヒの実り豊かな村だった。これもキリマンジャロの恩恵なのだろう。ゲートでは一人一人が書類に記入し、エ



ントリー料を支払わなければならず、通過に随分と時間がかかった。登山行動初日は終日、熱帯雨林のぬかるみの中を行く。途中ヒルがいると聞き、いつ頭上からバサバサと落ちてくるのだろうかと思いが気ではなかったが、遭遇しないで済んだ。また、心配されたマラリヤ蚊も山中では見かけなかった。マチャメルルートは予想以上に好ルートだった。テントサイトも多数、点在している。当初、最終キャンプ地に予定していたラバタワハットは、現在では小屋もなく、キャンプ地としても利用されていないということ、その先、四八〇〇mのアローグレイシャCに設営した。そこは粗末なトイレが一棟あるだけの平坦地だったが、ここからの氷河やピーク直下の垂壁

の眺望は圧巻であった。

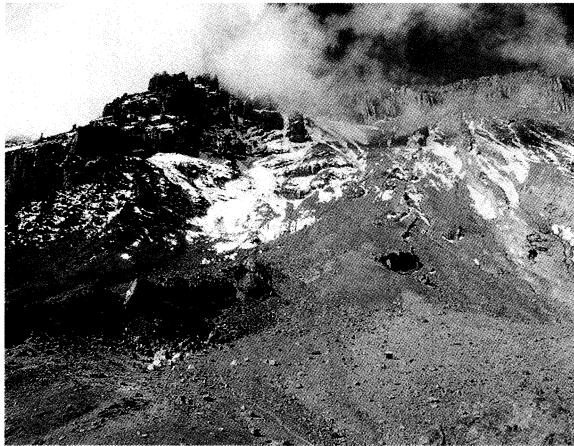
二十八日、現地時間の午後十時半起床。気温マイナス二度。南十字星が頭上にあつた。体調を崩しミレニアムCヘトラバースする隊員一人と別れ、十一時四十五分、十九名でウフルピークを目指して出発、すぐさま急登となった。月

もまだ昇らない深夜の行動でもあり、ヘッドランプの明かりだけが不安定な足元を照らす。ウエスタンブリーチに出る直前の壁は、ザイルこそ必要ではないが、バランスを崩せば一挙に転落する地形であつた。さらに凍結箇所も所々にあつた。そこを高度障害と思われ

る睡魔に襲われたり、足元がふらついたりの隊員が行く。今にして思えば冷や汗ものであつた。

二十九日、午前七時四十五分、

気温マイナス十一度。十九名全員がウフルピークに着、感激の瞬間をたっぷりと味わつた。キリマンジャロの登頂成功率は五十%程だという。我々に劣らぬガイド達の喜びようが印象的だつた。ガイド達の話ではマチャメルトは別名「ウイスキールト」と言うらしい。ちなみに、よく知られたマラングルートの別名は「コークルト」。



うであつた。このルートに入つた日本人は我々が初めてだとムエカハット常駐のレインジャーが言つていたが、果たして本当かどうか。

ミレニアムCはその名の通り今年出来たばかりのキャンプだつた。

三十日、一気になり、モシのホテルに落ち着いた。汗を流した後、「キリマンジャロビール」での祝杯は格別であつた。

◎終りに

一九八〇年のシャルミリ遠征から二十年、通算五回目、創立五十年記念の海外遠征は、至れり尽くせりの「大名登山」ではあつたが、長大なアフリカ最高峰に立つた充足感はまだ冷めやらない。また、今回の遠征ならではの経験も、次に生きる経験であつたと確信している。

群馬県山岳連盟主催

平成12年度 「登山教室」について

指導部 日向野 克 己

◎第五回・十月二十九日(日) 登山

「子持山南面コース」

奥の院登山道入り口、獅子岩、子持山頂・柳木ヶ峰、大タルミ、奥の院登山道入り口。

◎第六回・十一月一日(水)

討議・質疑応答・修了証交付

(参加者・四四名。講義会場は全て生涯学習センター)

十二年度登山教室の特徴は、日程の最後に設けた討議の時間にあると思われる。通常は、最終日のまゝとめとして、質疑応答、感想発表程度で終了していたのであるが、今回は日程を一日増やし、最終日に参加者全員による討議の時間を設定した。これは、登山教室に参加してくる人たちが、どのような考えを持ち、またどのような事を望んでいるのかを直に知りたいたいと言うこともあるが、せっかく五日間行動を共にした仲間として、より深く交流を深め合うという狙いもあつたわけである。

討論は全員が発言し、一種の経験交流の形をとりながらも、それぞれが知りたいことも明らかに、かなり有意義な時間



ロープの扱い方実習 (子持山にて)

を持つことができた。

内容は、体が不調になったときの救急処置であるとか、熊やスズメバチ、あるいは雷に遭遇したときの対処法などをはじめストックの使い方、歩き方など、登山の基本的な技術面が多かつたのであるが、基本はいつも繰り返し習得の場を持つべきであり、その意味では大事な時間であつたように思う。いわゆる中高年者を主体とした登山の隆盛は相変わらずであるが、それに付随する事故も多いのもまた事実である。この一種の社会問題とも言うべき事態に対して、この登山教室の試みが、ささやかながら役にたてばと願うものである。

- 平成十二年は、全日本登山体育大会が本県の谷川岳で開催された事もあって、恒例の登山教室は例年よりもやや遅い日程で行なわれたが、今回も種々の収穫を得て終わることができたように思われる。
- 今年度は全六回の日程で実施したが、内容は次の通りである。
- ◎第一回・十月十三日(金)
開講式並びに講義
 - 「山の救急法について」
 - ◎第二回・十月二十日(金) 講義
「地形図の基本・読図について」
 - ◎第三回・十月二十二日(日) 登山
「赤城山・3コース」
 - Aコース 白樺牧場、鈴が岳
 - Bコース 出張、薬師、五輪
 - Cコース 五輪、薬師、出張
 - ◎第四回・十月二十七日(金) 講義
「天気図の見方・書き方」

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

くらしに緑を 家庭に花を 各種鉢物生産・販売・宅配

小野園芸

利根郡白沢村平出1005

TEL 0278-53-2749 温室 TEL・FAX 0278-53-3987

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802





墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店

高 橋 石 井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プ モ リ 電 設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中央町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL:03(5245)0511
FAX:03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

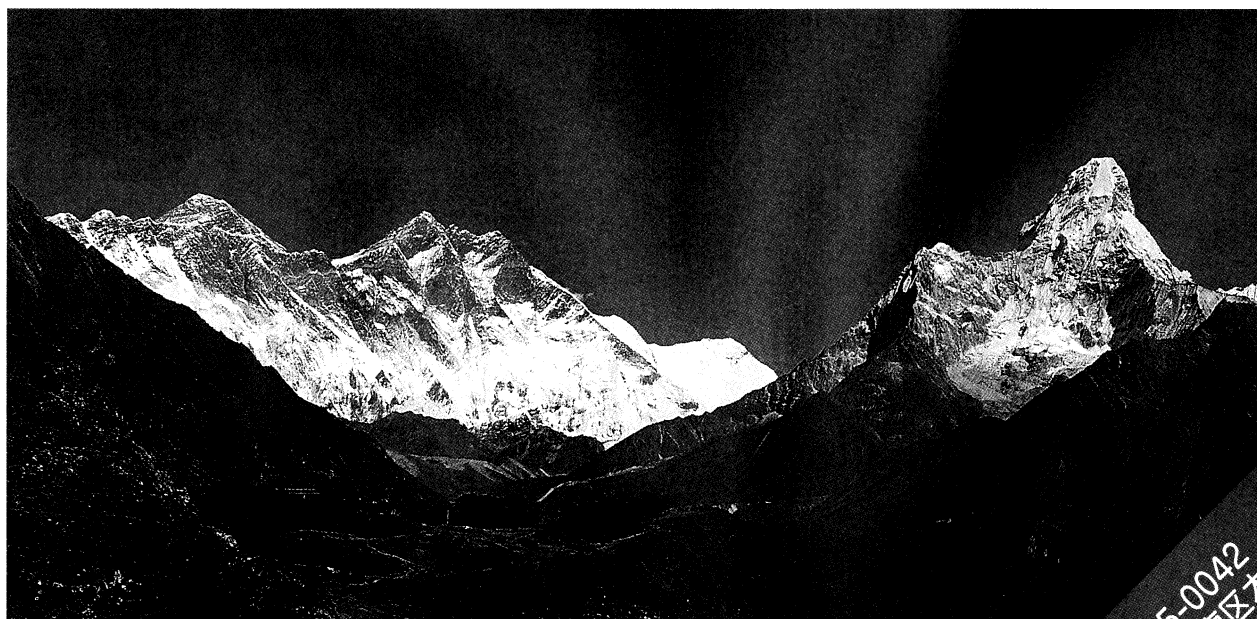
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

〒135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業

萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定（公認）

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店
有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場
建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業
株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション
萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964